

戸塚消防団員募集

一緒に守ろう、自分の町



■消防団員は非常勤特別職の地方公務員となります。

入団資格

戸塚区に居住、勤務、在学している満18歳以上の方、日本以外の国籍をお持ちの方(外国籍)も入団できます。(入団条件あり)

主な活動

災害に迅速かつ的確に対応するための訓練、火災等での消防隊支援
地域住民への防災指導や中学生への救命講習(AED)など。

処遇等

報酬	年額報酬	年額 36,500円 (階級が団員の場合)
	出勤報酬	災害出場 7,000円/回 訓練・防災指導等 3,500円/回
退職報奨金	5年以上勤務(活動あり)し退職した際に支給	
公務災害補償制度	消防団活動中に負傷した場合の補償制度あり	

※活動に必要な被服などが貸与されます。

入団申請二次元コード



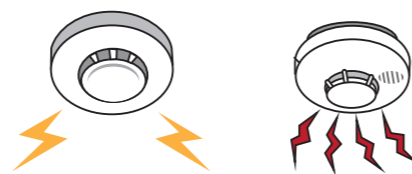
■お問い合わせ・相談

戸塚消防署総務・予防課消防団係 **TEL・FAX 045-881-0119**
http://www.city.yokohama.lg.jp/shobo/shouboudan/

消防豆知識⑥ 住宅用火災警報器

住宅用火災警報器義務設置から10年。取替え時です。

住宅用火災警報器が設置されている場合、死者の発生は約4割減、焼損床面積、損害額は概ね半減しています！住宅用火災警報器の電池の寿命の目安は約10年とされています。「いざ」というときに適切に作動するよう、火災予防運動の時期などに、定期的に作動確認を行い、適切に交換を行うよう習慣づけましょう。



急な病気や怪我で受診の相談をしたいときは・・・？

横浜市救急医療相談センター (#7119)



#7119

※または、045-232-7119

すべての電話でご利用できます。

受診できる病院・診療所を知りたい時は・・・？

電話機の **1** を選択してください。

急な病気や怪我で、病院・診療所に行くか、救急車を呼ぶか迷う時は・・・？

電話機の **2** を選択してください。



QRで即、電話



懐かし写真館

半鐘 (はんしょう)

寛政3年(1791)、江戸の鋳物師、西村和泉守によって鑄造された。

口径33cm。

旧東光寺の梵鐘だったが、戦時の供出の難を逃れ、神奈中バス舞岡営業所前の道路向いにある火の見櫓の半鐘となった。現在は安全のため火の見櫓から外されている。鐘の表面には、東光寺の縁起、鐘の功德、村人の功績などが刻まれており、舞岡の歴史を知る上で貴重なものとなっている。



消防に関する懐かしい写真をお寄せください。

戸塚消防団通信では消防団に関する活動・建物・機材など懐かしい写真を募集しております。「古い写真あります。」とお電話ください。広報委員がお伺いします。

TEL : 045-881-0119

戸塚消防団広報委員会の Facebook ページ
横浜市戸塚消防団 — 戸塚消防団通信 —

戸塚消防団通信

検索

※消防署の公式ホームページではありません。

vol.6
2021.11



特集 消防今昔物語:建物・車両・ポンプ編
消防団からのお知らせ:戸塚消防団員募集
消防豆知識⑥:住宅用火災警報器
懐かし写真館:半鐘(はんしょう)



戸塚消防団通信
バックナンバー QR

特集 消防 今昔物語

建物・車両・ポンプ編

消防の発足から戸塚消防団の歴史を当時の様子から現在までを写真で追ってみる企画。今回は建物、車両、ポンプの変遷を消防署も含めて特集してみました。懐かしく感じる人、新たに興味を覚える人、じっくりお楽しみいただければ光栄です。

消防団沿革 1894~1969

1894年(明治27年)2月
消防組が発足。勅令第15号により消防組設置令の公布に基づき、同年5月三組(伊勢佐木、石川、山手)217人が編成される。

1912年(明治45年)
消防組に常設消防隊が併設される。

1919年(大正8年)
常設消防隊が消防署となる。消防組はそのまま存続。

1922年(大正11年)11月
伊勢佐木、戸部、南太田、平沼、神奈川、子安、関内、加賀、寿、山手、特置(現山下町)、水上、中村、磯子、北方の15消防組となる。翌1923(大正12年)に発生した関東大震災時に大活躍した。

1939年(昭和14年)4月
警防団令が公布され、消防組は警防団に統合される。警防団は、地方長官の職権または市町村の申請により設置されたもので、その機構が強化され、組織も団長、副団長、分団長、部長、班長及び警防員の6階級にて編成される。

1942年(昭和17年)
警防団が20団に(加賀町、伊勢佐木、水上、山手、磯子、寿、大岡、鶴見、神奈川、川和、戸部、保土ヶ谷、戸塚、中和田、豊田、中川、本郷、川上、瀬谷、大正)。合計人数8,932人となり、第二次世界大戦の警防活動を始め、防空消防の一翼を担い終戦を迎える。

戦後、駐留軍司令部からの命令により、既存の各種団体の解体が行われたが、警防団は特に除外され、昭和22年5月消防団令が公布され改組されるまで存置。

1947年(昭和22年)4月30日
勅令185号、消防団令公布。市町村の責任において消防団を設置するように定められる。

1947年(昭和22年)12月
法律第226号により消防組織法が制定され、これに伴って横浜市消防団条例(条例41条)公布。7章24条からなり、新生消防団が誕生する。

1948年(昭和23年)3月7日
消防組織法が施行となり、これにより自治体消防が発足し、消防団は公設消防とともに横浜市に移り、横浜市消防団の第一歩がはじまる。

設置数は、横浜市8行政区に13消防団(鶴見、神奈川、西、伊勢佐木、加賀町、山手、寿、大岡、保土ヶ谷、磯子、港北、川和、戸塚)、7,809人で運営される。
戸塚消防団: 8個分団1,520人

1952年(昭和27年)11月
磯子区が磯子区と金沢区に二分割され、新たに金沢消防団が誕生し、14団、7,824人となる。

1969年(昭和44年)10月
横浜市行政区再編成。港南区(南区から分離)、旭区(保土ヶ谷区から分離)、瀬谷区(戸塚区から分離)の3区が新たに誕生し、同日よりそれぞれの区名を冠称した消防団が編成されるとともに、川和消防団が緑消防団と改称され17消防団となる。
戸塚消防団: 7個分団1,312人



消防団沿革 1986~2021

1986年(昭和61年)11月
戸塚区が戸塚、栄、泉の3区に再編成され、同日よりそれぞれの区名を冠称した消防団が誕生。19消防団となる。
戸塚消防団: 7個分団741人

1994年(平成6年)11月
港北区、緑区の再編成が行われ、新たに青葉区、都筑区が誕生し、それぞれの名称を冠称した消防団が誕生。18行政区、21消防団となる。

2006年(平成18年)4月1日
「横浜市消防団の定員、任免、給与、服務等に関する条例」の一部が改正され、横浜市消防団の条例定数が「8,305人」と改められるとともに、「横浜市消防団ごとの定員を定める規則」が制定され、各消防団における定員数が定められる。また、同条例第3条「団員の資格」に、従来の居住要件に加えて、「勤務する者」及び「在学する者」が追加される。

2010年(平成22年)4月1日
横浜市寿消防団及び横浜市大岡消防団の両団が統合され、横浜市南消防団が誕生。18行政区20消防団、実員数7,414人となる。

2013年(平成25年)4月1日
「横浜市消防団の定員、任免、給与、服務等に関する条例」の一部が改正される。また、平成24年3月に70歳定年制が施行され、実員数7,154人となる。

2019年(平成31年)1月1日
実員数が8,305人となり、初めて充足率100%を達成する。

2021年(令和3年)4月1日
実員数7,739人、充足率 93.2%

2021年(令和3年)10月1日現在
戸塚消防団: 実員数735人、充足率 96.7%

女性消防団員の採用について

女性消防団員の採用の契機となったのは、1995年(平成7年)1月17日に発生した阪神・淡路大震災において、火災の他に救助や救急事案が多く発生したことを教訓により1995年(平成7年)10月に「地震時における消防団の活動に関する検討委員会」を消防局内に設置したことに始まります。この委員会において、地域社会における女性の力を消防団組織の中で活かし、消防団の活性化と消防力の強化を図るという結論に達しました。

また、各消防団長からも同様の提言がなされ、「横浜市消防団員の定員、任免、給与、服務等に関する条例」第3条に規定されていた男子条項の削除を行い、女性消防団員が誕生することとなったものです。

1997年(平成9年)10月1日
本市12消防団(鶴見、神奈川、西、伊勢佐木、加賀町、寿、大岡、港南、保土ヶ谷、旭、磯子、都筑)で初めて女性消防団員190人を任命。

1998年(平成10年)4月1日
残る9消防団を中心に女性消防団員の任命を行い、条例定数を8,024人とし施行。
2021年(令和3年)4月1日
横浜市消防団では1,345人の女性消防団員が活動しています。
2021年(令和3年)10月1日現在
戸塚消防団では91人の女性消防団員が活動しています。

